

「くまもと・まち魅力向上協議会」

くまもと・まち魅力向上プロジェクトの一環で、『まちなか福祉月間「まちなか+one」』、「感じよう+one」イベントを開催



くまもと・まち魅力向上プロジェクトにおける『まちなか福祉月間「まちなか+one」』の第2弾「感じよう+one」で、障害スポーツ体験、アールブリュット（障がいのある人々の芸術活動）作品展示、車いす体験などが行われました。

2018年6月9日（中心市街（地下通・上通界限））

食産業復興支援

地域の活性化支援

熊本市の中心市街地である上通・下通・新市街の各商店街の若手メンバーを中心に、不動産オーナー、飲食店経営者、障がい者支援施設運営者など、幅広い分野の有志と熊本市、熊本商工会議所で構成された「くまもと・まち魅力向上協議会」。キリングroupでは、今年2月に『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援の一環として、同協議会が進める「くまもと・まち魅力向上プロジェクト」へ900万円の助成を実施した。

この度、支援金を活用したイベント『まちなか福祉月間「まちなか+one」』が開催され、6月2日の「考えよう+one」に続き、6月9日には「感じよう+one」と題して、障害スポーツ体験、アールブリュット（障がいのある人々の芸術活動）作品展示、車いす体験などが行われた。リオ・パラリンピックで日本代表が銀メダルを獲得して注目を集めたポッチャをはじめ、ロービジョンフットサル、フライングディスク体験には、子どもからお年寄りまで幅広い層の人たちが参加。また、複合商業施設「COCOSA」前では、ちぎり絵作家・荒木聖恵さんの制作パフォーマンスも行われ、多くの人が足を止め見入っていた。

同プロジェクトでは、6月23日にも「楽しもう+one」を題したイベントを開催するなど、今後も誰もが安心して過ごせる“まち”を目指して、障がい者福祉に関するさまざまな企画を計画 중이다。

コメント①

くまもと・まち魅力向上プロジェクト 副会長 布田 善久 様

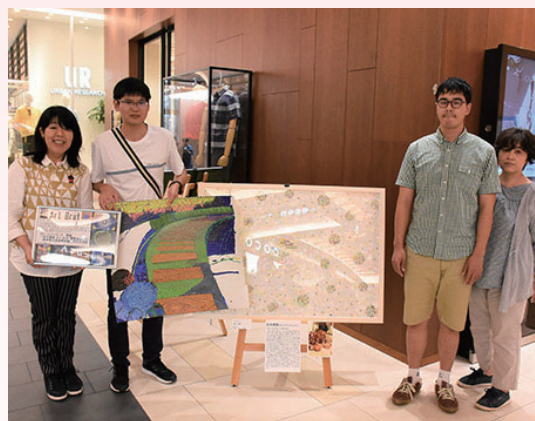
障がいのある方でも気軽に街に来ることができる環境づくりが必要と考え、6月を「福祉月間」とし集中的にイベントを実施しています。今回出た課題等を検証し、必ず今後につなげていきます。現在、私は弱視の方たちが行うロービジョンフットサルの「日本代表を応援する会」会長として普及活動に携わっています。体験会では、子どもだけでなく大人の方も関心を持ってくださり、意識の高い方が多いと実感しました。道路整備などのハード面にはお金と時間がかかるので、まずはソフトである“人々の意識”から変えていきたいですね。そのためには、まちで働く私たちの意識を変えることが何より重要だと感じています。



コメント②

アールブリュット パートナース熊本 事務局長 三浦 貴子 様

「アールブリュット」とは、フランス語で「生(き)の芸術」という意味で、正規の美術教育を受けていない人たちの自由で独創的な絵画や造形のことを指し、100年以上前に画家ジャン・デュビュッフェが提唱した概念(芸術分野)です。私たち「アールブリュット パートナース熊本」は、この素晴らしい芸術を知ってもらうことを目的に2014年1月に活動をスタートし、障がい者の芸術文化活動支援を行っています。今日、展示してある緻密で繊細、かつ唯一無二の作品を、障がい者の作品という目で見るとはならず、純粋な芸術作品として鑑賞いただければ嬉しく思います。「まちなか+one」は私たちが願っていたような企画で、多くの方の目に触れる機会をいただき感謝しています。今後も、定期的に展示ができると作家たちの励みになると思います。



コメント③

熊本市障がい保健福祉課 小山 恭正 様

プロジェクトメンバーの一員として、熊本市のホームページやSNS、広報媒体でのPR活動を行いました。車いす体験会では、パルコ前から長崎書店前まで往復してもらいましたが、「歩いている時には気づかない小さな坂や市電の軌道などがあり、一人で渡るのは大変だった」との感想をもらいました。今回、障がい者の「困りごと」を体験してもらうことで、まちで働く皆さん・まちを訪れる皆さんの中に「できることを少しでもサポートしよう」という気持ちが芽生え、行動に移してもらえたらいいん嬉しく思います。熊本市としても、月1回、びぶれす広場で障がい者施設で作られた商品の販売会を行っています。これからも障がい者への理解を深める取り組みを、中心市街地と連携して進めていきたいと考えています。



コメント④

一般社団法人 Arts and Sports for Everyone 代表理事 吉田 祐一 様

「Arts and Sports for Everyone」は、障がい者の芸術とスポーツ活動を支援する団体です。2016年4月の設立後すぐに熊本地震が発生。障がい者が社会で活動していくためには、さまざまな協力が不可欠です。そこで、避難所でポッチャ体験会や音楽会を行い、少しでも“笑顔の恩返し”をしたいと活動してきました。今回、中心市街地でこうしたイベントが行われ、障がい者スポーツへの関心が少しずつ高まっているのを実感しました。秋には、障がい者も参加できるファッションショーを中心市街地で開催したいと考えています。



コメント⑤

スペシャルオリンピックス熊本 黒田 雄一郎 様

知的障がい者のスポーツ競技大会「スペシャルオリンピックス」の運営に携わっていますが、まだ認知度は高くありません。今回のように、多くの方に障がい者スポーツに触れていただけたことは大きな収穫です。障がい者スポーツの中には、ルールを工夫すれば誰もが楽しめるものもあります。今後は、芸術・スポーツ・ものづくりにおいて、障がいの有無に関係なく「いいものを作る」ことが大事になると思います。障がい者にできることは少ないと思われるかもしれませんが、環境さえ整えれば、ものすごい力と才能を発揮できるんです。



コメント⑥

くもと・まち魅力向上プロジェクト 副会長 安田 征司 様

「ひとそだて」「とこづくり」「ことおこし」が、くもと・まち魅力向上プロジェクトの3つの柱です。その一つ「とこづくり」では、老若男女、障がいの有無に関係なく、安心して中心市街地で買い物をしてもらえることを目標に活動しています。その第一歩として、障がい者のことをもっと身近に感じ、理解することが大切だと思い、このイベントを企画しました。イベント名の「+one」は、高齢者や障がい者など、普段、街に来ない方を「+one」と捉え、そのような人たちにも来てもらえるようになれば、さらに街が活性化するとの思いから名付けました。今後も、中心市街地で行う祭りやイベントで福祉ブースを設けるなど、一步ずつ進めていきます。熊本地震で大きなダメージを負った商店街ですが、キリングループ様のご支援をいただき、いま一度「絆」について考え、行動する機会をもらったことに心から感謝申し上げます。

